



「これからも自分の修練の道は続く そして子ども達や大勢の人にも 剣道の神髄、探求する楽しさを伝えたい」

栗原憲一さん(剣道八段)

一般的にとっても難しいとされる司法試験の合格率は約3%。その司法試験よりも合格率の低い、日本最難関とまで言われる審査に合格した方が水野にお住まいです。なんと合格率約1%という剣道八段審査に、去年11月、7年14回めの挑戦で合格した栗原憲一さん、53歳。1千100名以上が挑戦し、合格したのはわずか13名。そのあまりの難しさに、「八段は一生受からないかもしれない」とまで言われる審査です。事実、挑戦者の中には20年以上受験し続けている70歳を過ぎた剣士もいる程です。

栗原さんが剣道を始めたのは小学4年生のころ。親戚のおじさんに勧められて寒稽古に参加したことがきっかけでした。第2次世界大戦後に進駐軍から禁止されていた剣道がスポーツとして認められ、活動できるようになって間もなくのことです。「心身を鍛練し人間形成をめざす武道である。戦つための技術ではない。心を鍛えるための道である」とこれが剣道の神髄とされ、技術もさることながら、剣士は皆、自分自身の心と体の鍛練を稽古によつて重ねます。栗原さん自身も八段合格のために一番求めたものが「心気力」。先輩の八段合格者から、合格のためには「気力が必要」と言われ、どうしたら気力が身に付くのか考えたそうです。いかに気力を発揮するかにすべてをかけて臨んだ審査。神がかり的なものを出せるか、魔物が乗り移るかが、合否の分かれ目だと思っていました」と審査を振り返る栗原さん。先輩の「気力



という言葉が理解できたのは合格の後だったそうです。あの審査中の120秒間、これがまさに気力と気力の闘ぎ合いだつたのです。」

その貴重な経験を経て、今、栗原さんは剣道をもつと大勢の人に知ってほしいと願っています。「剣道は一生涯続けていける武道です。例えば体力が落ちてきたとしても、精神を鍛練し、心を向上させることは、死ぬまで続けられます」とおっしゃいます。また、剣道は子どもも健全育成にも役立つと考えます。「剣道をやっていると、気が強過ぎる子は、人の痛みが分かるから優しくなる。気の弱い子は、真の強さを身につけるのです」と、剣道の神髄「人間形成」を身をもつて子ども達に実践しようとして、剣道の楽しさ、奥の深さを伝え続けています。「やるほどに、奥の深さにのめり込む。それが剣道の魅力。私も魅力にとりつかれた一人。まだまだ修練を続けます」と、遠い未来を見据えて静かに笑いました。

ものづくり 狭山人づくり の産業



今はラベンダーの花が出荷を迎えています

水野の農家、牛窪洋治さん・弘樹さん親子は、800坪13棟のビニールハウスで年間約20種類の花を栽培・出荷しています。9年ほど前までは野菜を栽培していました。しかし弘樹さんが作りたかったのは花。「息子の好きにさせたい、父である洋治さんの思いに応え、卒業後、本格的に花栽培を始めた弘樹さんは、仕入れから出荷まですべて主体となってきました。一方、「野菜にこだわらず農家を続けてくれればいい」と見守ってきた洋治さんにも、初めは戸惑いがありました。野菜作りに比べて花は小さな1株への繊細な作業が多いのです。また、毎月安定した出荷のためにスケジュールを管理し、季節ごとに需要のある花を見極めて咲かせることも必要です。今、広いハウス一面の花が出荷を心待ちにしています。新婚の弘樹さん、奥さんも一緒に家族で花作りを支える毎日です。

(牛窪洋治さん、弘樹さん/水野・花栽培農家)

Hello ハロー 仲間たち

Vol 261

「狭山童謡の会」

国道16号から新富士見橋を渡ったところが、当自治会の区域です。世帯数は770余、隣近所の顔見知りを増やすように、行事を多く行っています。カラオケ、バスハイク、夏祭、体育祭、ウォーキング、ポウリング、グラウンドゴルフ、卓球、ハイキング、高齢者お食事会など盛りだくさんで幅広い企画を心がけています。また、地域内で事業を行う法人事業者との関わりも大切にしており、増加する高齢者や学校5日制で休日が増える子ども達への対応が、今後の課題です。



バスハイクで榛名湖へ行きました



私たち狭山童謡の会は、結成して3年が経ち、先日記念コンサートを開催しました。常に活動しているのは約65名、童謡を楽しく歌う仲間が集まり、毎月第2金曜日に市民会館で活動しています。

童謡の歌詞は単純ですが、身近で分かりやすい内容なので、すぐに覚えて歌うことができます。そんな気軽さが、時代の流れに関係なく受け継がれてきた理由ではないでしょうか。しかし最近では、童謡にふれる機会が少ないせいから、歌える人が減ってきている気がします。子どものころから親しんできた童謡が忘れられていくのはとても淋しい。だから、自分たちが歌い継いでいくうちに、それが会を発足したきっかけでした。今では、童謡を歌って癒され、また声を出すことでみんなが健康的です。

全員で手をつなぎながら歌う夕焼けこやけ…これが活動の締めくくり。1か月後、また一緒に元気よく、楽しく歌いましょう、という約束の代わりになっています。

●問合せ

小島栄子さんへ

☎954 9977